

数 学 科

■ 発達や学年の段階に応じた反復（スパイラル）による学習指導の充実を図るために、どのようなことに留意して教育課程を編成したらよいか。

指導計画の作成や内容の取扱いについて、特に留意すべきことは次のとおりです。

1 指導計画の作成上の配慮事項

(1) 各学年で指導する内容について

第2の各学年の目標の達成に支障のない範囲内で当該学年の内容の一部を軽く取り扱い、それを後の学年で指導することができる。また、学年の目標を逸脱しない範囲内で、後の学年の内容の一部を加えて指導することもできる。

(2) 学び直しの機会を設定することについて

生徒の学習を確実なものにするために、新たな内容を指導する際には、既に指導した関連する内容を意図的に再度取り上げ、学び直しの機会を設定することに配慮するものとする。

(3) 道徳の時間などとの関連について

第1章総則の第1の2及び第3章道徳の第1に示す道徳教育の目標に基づき、道徳の時間などとの関連を考慮しながら、第3章道徳の第2に示す内容について、数学科の特質に応じて適切な指導をすること。

2 内容の取扱いについての配慮事項

(1) 用語・記号

第2の各学年の内容に示す〔用語・記号〕は、当該学年で取り扱う内容の程度や範囲を明確にするために示したものであり、その指導に当たっては、各学年の内容と密接に関連させて取り上げるよう配慮するものとする。

(2) コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用

各領域の指導に当たっては、必要に応じ、そろばん、電卓、コンピュータや情報通信ネットワークなどを適切に活用し、学習の効果を高めるよう配慮するものとする。特に、数値計算にかかわる内容の指導や、観察、操作や実験などの活用を通じた指導を行う際にはこのことに配慮するものとする。

3 数学的活動の指導に当たっての配慮事項

(1) 数学的活動を楽しみ、数学を学習することの意義や必要性を実感すること

数学的活動を楽しめるようにするとともに、数学を学習することの意義や数学の必要性などを実感する機会を設けること。

(2) 見通しをもって数学的活動に取り組み、振り返ること

自ら課題を見だし、解決するための構想を立て、実践し、その結果を評価・改善する機会を設けること。

(3) 数学的活動の成果を共有すること

数学的活動の過程を振り返り、レポートにまとめ発表することなどを通して、その成果を共有する機会を設けること。

4 課題学習とその位置付け

課題学習とは、生徒の数学的活動への取組を促し思考力、判断力、表現力等の育成を図るため、各領域の内容を総合したり日常の事象や他教科等での学習に関連付けたりするなどして見いだした課題を解決する学習であり、この実施に当たっては各学年で指導計画に適切に位置付けるものとする。